

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471901734
法人名	社会福祉法人 宗徳会
事業所名	グループホームつばき
訪問調査日	平成20年5月28日
評価確定日	平成20年7月15日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1471901734		
法人名	社会福祉法人 宗徳会		
事業所名	グループホームつばき		
所在地 (電話番号)	横須賀市太田和 2-10-3 (電話) 046-855-0731		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成 20年5月28日	評価確定日	平成20年7月15日

【情報提供票より】(19年12月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 6人, 非常勤 16 人, 常勤換算 15.1 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り 1階建て		
------	---------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円	
敷 金	有(230,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(12月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山形医院、横須賀市立市民病院、古屋歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは緑豊かな丘陵が続く住宅地の一画にある、広々とした敷地を活かした平屋建てのグループホームである。建物内を概観すると、八畳ある居室や高い天井の廊下、イベントなど多目的に使われる広い中庭、広い浴室、各ユニットの5ヵ所のトイレ等、ハード面の充実の特筆に値する。</p> <p>利用者は開設当初からの方が多く、恵まれた環境の中で地域の行事や各種の催し、近隣の保育園から老人会等幅広い年齢層の方々との様々な交流を楽しみながら、それぞれのペースで共同生活を楽しんでいる。利用者にとって顔なじみの職員は、利用者家族の信頼も厚い。</p> <p>法人の理解もあり、資格取得・技術向上のための研修・勉強会の機会も多く、人材育成を充実させている。災害時は、同法人が経営する隣接の特別養護老人ホームとの協力体制がある。医療面でも24時間の健康管理体制を採っている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果については会議で検討し、課題としてあげられた介護計画に沿った介護記録の記入については、ケース記録と介護計画の関係項目を連動させ、見やすく改善した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義については、日頃の活動を省みる機会と捉え、職員全員で取り組み、ユニットチーフが取りまとめた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、複数のグループホームの参加のもと、横須賀市独自の方法で開催されている。毎回テーマを決め、事例報告や意見交換を行い、グループホームのPRやサービス向上に有効な役割を果たしている。市の指導により、事業所単独の会議も今年度より年4回予定されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族からの意見、苦情については、家族会開催の折や来所時等に積極的に聴取し、サービスの向上や運営全体に反映させるようにしている。法人全体でも苦情処理体制を設け、意見箱も設置されている。今年度より、退所した家族も含めた家族代表を招いた事業所会議を企画している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の町内会に加入し、地域の盆踊り、運動会、バザー等の催しに参加している。また、地域の老人会有志やボランティアの訪問、保育園との相互訪問、小・中・高校の体験学習等も受け入れ、幅広い交流を大切にしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の持っている能力を引き出し、穏やかで健やかな尊厳のある生活を支援していきます」という独自の経営理念を掲げている。また、ユニット毎に理念に沿ったスタッフ心得を作り上げている。一つのユニットでは「見過ごさない、諦めない、見捨てない」とあり、地域に根ざしたホームを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は利用契約書の表紙、重要事項説明書、パンフレット等にも明示されている。事務室や職員更衣室に掲示され、職員の基本的な姿勢として身近なものになるように努めている。また、採用時の研修や法人の全体会議、グループホームの全体会議、日々の申し送り等でも絶えず確認され、実践に繋がるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小和田町内会に加入し、地域の盆踊り、運動会、バザー等の催しに参加している。また、地域の老人会有志やボランティアの訪問、保育園との相互訪問、小・中・高校の体験学習等も受け入れ、幅広い交流を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については、ホーム長より日頃の活動の振り返りの機会とするよう説明している。今回の評価には職員全員で取り組み、ユニットチーフが取りまとめた。前回の評価で指摘された項目については、会議で検討し、改善を図った。評価結果は、いつでも見られるように掲示されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当会議は近隣のグループホーム3施設が参加する横須賀市独自の方法で、毎回テーマを決め、事例報告や意見交換を行っている。既に3回開催され、グループホームのPRやサービス向上に有効な役割を果たしている。市の指導により、今年度から今までの会議と平行して、事業所単独の会議も年4回予定されており、目下準備中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する「認知症キャラバン・メイト活動」の講師役を引き受け、「認知症について」の講座を開催したり、市主催の研修会に参加している。このような催しや事務連絡等での連携で、市や民生委員の方にもグループホームの取り組みを理解してもらえるようになった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、各家庭に利用者の健康状態や暮らしぶり、行事案内等の事務連絡を報告している。この際、必ず職員の直筆の手紙を添えている。家族の訪問時や緊急の場合には、随時、報告や話し合いの機会を持っている。会計報告は、年2回定例の家族会で明細が報告されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、苦情については、家族会開催の折や来所時等に積極的に聴取し、些細なことでも十分に受け止め、サービスの向上や運営全体に反映させるようにしている。法人全体でも苦情処理体制を設け、意見箱も設置されている。今年度より、退所した家族も含めた家族代表を招いた事業所会議を企画している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初からの職員が多く、離職者は少ない。離職を最小限に抑えるため、職員が悩みを抱え込まないように、コミュニケーションを多くするように心掛けている。また、担当制を採用し、利用者への支援に職員がチームで当たっている。新採用者は、夜勤や日常業務においてベテランと組み、利用者徐々に馴染んでもらう体制を採っている。		
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人及び事業所全体研修会が、それぞれ月一回、全職員参加の元、その時節にあった研修テーマを選び開催されている。また、日常の事例での問題点や疑問点を皆で検討する機会を設けている。外部研修への参加や資格取得のための勉強会等も盛んで、サービスの質の向上に努めている。新人には中堅職員がマン・ツーマン体制で指導している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内44事業所が加入するグループホーム協議会に所属して、会議や研修会に参加し、情報交換のネットワークを作り、交流を深めるなど、サービスの質の向上に努めている。また、地域の関係事業所に法人主催の研修会への参加を呼び掛けるケースもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定がある場合には、本人、家族が来所し、見学したり利用者とおやつを一緒に食べるなど、全体の雰囲気に徐々に慣れるように配慮している。必要に応じて職員が家庭を訪問し、状況を把握し、入居後の生活に役立てている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活全般において、職員は利用者を人生の先輩として家事などを教えて貰ったり、ご本人のこれまでの経験などを聞くようにしている。また、その時々を利用者の状態を見ながら手伝いをお願いし、双方向的な関係を築くようにしている。そのために職員はお互いが連携し、利用者と共に過ごす時間を大切にしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常生活の様子や会話の中から、思いや意向を確認し、気付いた事をケース記録やカンファレンス記録に残すようにし、本人の意向の把握に努めている。利用者一人ひとりに複数職員を配置する担当制を採用したことで、利用者個々の繋がりがより深まり、細かな点も気付くことができるようになった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	通常は、担当チームが中心となりセンター方式により年2回アセスメントを行い、毎月のカンファレンス、日々のケース記録から利用者本人、家族の希望や思い等を反映させた介護計画を作成している。それらの介護記録を確認することができた。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、通常年2回、担当者が中心となり見直しを行っている。入院したり状態の変化が著しい場合には、カンファレンス等で話し合い、家族と連携し、随時見直しを行うようにしている。利用者の状態により、多いときは年4回見直しを行ったケースもあった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の健康管理体制として、医療連携体制加算の指定を受け、24時間の対応、緊急時には総合病院の支援を受ける体制が採られている。利用者の状況によっては、同法人が経営する隣接の特別養護老人ホームを紹介したり、通院・外出等の支援を日常的に行うなど柔軟に対応している。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後、かかりつけ医の受診を引き続き希望する利用者には、その様に対応している。また、診療先の変更の要望がある場合には、利用者や家族の思いを尊重して紹介している。嘱託医及び看護師が週2回、協力医療機関の内科医は週1回、精神科医は月1回、定期的にそれぞれ往診があり、歯科医は口腔ケアの指導を兼ねて、毎週の往診がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した時は、家族やかかりつけ医に速やかに連絡して、相談したり指示を仰いで対応している。全職員が方針や対応を共有している。また、家族会開催の折にも、重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し、個別に話し合う機会を設けた。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修会等で利用者への言葉かけや対応、プライバシーの重要性について学び、日常的には利用者一人ひとりに合った言葉かけを心掛けている。 利用者の記録は個別にファイルで管理し、外部から見えない場所に保管している。個人情報の取り扱いについては、文書化して職員の誓約を取っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所にはおおよそのスケジュールがあるが、利用者一人ひとりのペースや希望を尊重し、状態を見て柔軟に支援している。例えば、散歩、行事、買い物等の参加について、その都度希望を聞いたり、時には「今日はどうしましょう」と過ごし方を尋ねることもある。起床や朝食についても、利用者のペースに応じて早くしたりゆっくりしたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時、利用者の話題の中から、希望や好みを把握し、旬の食材を考慮した献立を考えている。時には、外食や出前、パンバイキング、行事食を取り入れ変化をつけている。訪問時には、利用者が職員と一緒に食事の準備、盛り付け、後片付けをしていた。おいしく食べられるよう、食事前には外気浴や嚥下体操、「いろはにほへと」の唱和等を行っていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を好む利用者が多いので、毎日風呂を楽しめるように対応している。風呂に入りたがらない利用者には職員が上手に誘導して支援している。それぞれのユニットの浴室はヒノキ風呂または洋風で、清潔に保たれ、スペースにも余裕があり、利用者がゆったりとした気分で入浴が楽しめるよう配慮されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活歴や趣味等を十分に把握し、日常的に職員が利用者本人より過ごし方の希望を聞いて、持っている力を発揮できるように支援している。利用者は、家事全般、散歩、ピアノ、書道、買い物、歌等、本人の出来ること、希望により様々な過ごし方をして生活を楽しんでいる。利用者の一人は新聞を購読している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には、散歩、買い物、中庭等での外気浴、湘南国際村へのドライブなどに出かけている。また、法人が経営する隣接の特別養護老人ホームを訪問し、踊りやその他催し等に参加するなど外出の機会を作り、生活に変化をつけている。それらへの参加には、利用者の希望や状態を十分考慮して対応している。歩行が困難な利用者には車椅子での外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関及び居室の出入り可能な箇所には一切カギを掛けていない。夜間、居室の掃きだし窓については危険防止のため、内外より施錠している。利用者によっては本人の希望により居室の出入り口の内カギを掛ける場合もある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、全員参加で夜間を想定して避難訓練を実施し、消防署への通報も行っている。事後には、その評価を行い対策に万全を期している。法人が経営する特別養護老人ホームとは協力体制があり、消防署への通報もお願いしている。法人の全体研修会でも災害対策について取り上げ、職員の意識の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取については、管理栄養士の資格を持つ職員が献立を作成し、カロリーや栄養バランスに注意している。また、食事や水分の摂取量を、バイタルチェック表やケース記録表に記入して状態を把握している。利用者が体調不良の時には別メニューや補食を考えたり、太りやすくなるので、適宜な運動を考えるなど、個々の健康管理に留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から続く廊下は天井が高く、絵画やキルトの作品が飾られ、居間兼食堂は広く、開放的な中庭に面している。居間は窓からの採光や風通しも心地良く、音量への気配りもあり、テレビ、ピアノ、ソファ、置き物、季節の花等がさり気なく置かれ、家庭的な雰囲気を醸しだし、快適に過ごせる共用空間になっている。トイレは各ユニットに5ヶ所設置され、そのうち車椅子対応は2ヶ所となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は8畳と広く余裕がある。クローゼット・洗面台が備え付けられ、掃きだし窓の障子戸は親しみのある雰囲気を醸しだしている。利用者は、ベット、机やイス、テレビ、整理ダンス、仏壇、家族の写真、好みのぬいぐるみや様々な装飾品等馴染みのものを持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームつばき
(ユニット名)	ユニットつばき
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市太田和2-10-3
記入者名 (管理者)	大澤憲夫
記入日	平成20年5月5日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームつばき運営理念 利用者の持っている可能性を引き出し、毎日をこころ豊かに過ごせるよう全職員一丸となって支援いたします。 グループホームスタッフ心得 見過ごさない あきらめない 見捨てない		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	パート職員も含めた法人全体研修会・グループホーム全体研修会等で理解・共有し、事務室・更衣室にも掲示し、毎日確認しながら、日々実践に向け努力しています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会やグループホーム運営推進会議において家族・地域の方に理解してもらえるように説明しています。		事業所会議においても説明し、理解してもらえるようわかり易く伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物等で近所の方に出会うと声をかけてくれたり、挨拶をしています。時々お花をいただいたり、回覧板等での立ち寄りがあります。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して盆踊り、福祉バザー、健民運動会に参加し祭り神輿がグループホームの駐車場まで来てくれます。又老人会有志の大正琴ボランティア、近隣学生の体験学習の受け入れをしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域公開研修において認知症サポーター養成講座を実施し、地域の高齢者等に関心を持ち支えていけるように情報発信をしました。</p>		<p>今後も地域公開研修において認知症についての情報発信をしていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己の振り返りと質の向上に向け評価を活かし支援記録の用紙の改正を行った。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>毎回テーマを決め各事業所ごとに報告し、市担当者・民生委員さんも含め意見交換し、サービス向上に活かしている。</p>		<p>平成20年度より事業所会議が年4回、地域会議が年2回開催予定。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市主催の研修会への参加や認知症サポーター養成講座に際しても、又事故の報告、その他についても必要に応じて市との連絡をとっている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修への参加や全体研修会においても学び、必要に応じて支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修への参加や全体研修会において学び、又注意を払い虐待の防止に努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は十分な説明を行い理解・納得をしていただきサインもいただいている。又不安等についても尋ねている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中で各利用者に確認をしながら生活を支援し、改善点があれば努力している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族来所時、家族会、毎月の家族への便り、受診時等に定期的及び随時個別に報告をしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族来所時、家族会等で、又は苦情受付箱の設置、苦情処理受付担当体制ができていていつでも受け付けられるようにしている。</p>		平成20年度より事業所会議が予定されているので家族の意見等もっと聞いていきたい。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体研修会の機会や個々にでもいつでも聞ける状態になっている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>個々人の要望等に柔軟に対応し、勤務調整に勤めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職は少なく馴染みの関係はできている。又新しくはいる職員については先ず利用者に顔を覚えてもらい馴染んでもらえるような体制をとっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修会が月1回の他外部研修、グループホーム全体研修会も月1回ある。又それぞれの資格取得に向けた勉強会もあり学びの機会が多い。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の場や研修会への参加、又は当法人主催の外部講師による研修会には地域の同業者にも呼びかけ一緒に勉強している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩場所の用意やいつでも相談できる環境にある。又食事会等でコミュニケーションを図っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修会、勉強会の開催やパートの方では介護福祉士資格取得者に自給アップを実施している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前は本人に会い話をよく聴き受け止める努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前は家族等に話をよく聴き受け止める努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特養ショートステイの利用等対応に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には職員が本人に会いに行ったり、本人・家族等が見学に来たり、短時間入居者と一緒に過ごしていただいたりして徐々に馴染んでいただけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で一緒に家事・散歩・体操・お茶のみ等をしながらかわからないことは教えてもらったり手伝ってもらったりしながら生活を共にしているという意識をもって関係を築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会や夏祭り、敬老会、家族会の催し物では家族等も一緒に過ごされいつでも家族等が来所できる環境にある。又受診の付き添いや散歩、外出等の協力もある。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	催し物の時は一緒に過ごしていただいたり、毎月家族等宛て職員や本人から簡単な便りを送ったり、受診結果等について家族等に連絡し、距離が離れてしまわないように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、友人等の来所時は部屋で会っていただいたり、電話があればお話いただき家族との外出もある。又日常の話の中でも馴染みの人や場所について触れている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中で常に意識して利用者同士うまくいっている時は様子を見守り、トラブルになりそうな時は職員が間に入り、孤立しないように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	当グループホームから特養に移られた方には入居者と職員が一緒に行ったり、グループホームへ来てもらって入居者と一緒過ごされることもある。家族にも喜ばれている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で直接本人に確認しながら把握に努めている。又カンファレンス等で本人の視点に立った意見を出し話し合っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用により本人、家族等からプライバシーに配慮しつつ情報の把握に努めている。又随時見直しや新しい情報の追加も行っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の中で一緒に暮らしながら、又カンファレンス等でも確認し合いながら職員全員が総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制によるチームを作り本人、家族からの希望、要望等を反映させた話し合いを持ち、介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当ごとに期間に応じた見直しを行っている。又変化が生じた場合には家族とも連絡をとったり、担当ごとに臨時のカンファレンスにて話し合いを持ち、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の支援記録に状況がわかるように記入し、情報の共有に努めている。又介護計画の実施状況の表も作成して毎日記録し、見直しに活かしている。		介護計画に沿った記録がもっとできるように意識して取り組んでいきたい。
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受け24時間健康管理体制ができています。又本人の状況により特用へ移動することもある。		空室ができた時のショートステイやデイサービスができるようになりたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる習字、大正琴や学生の福祉体験学習の受け入れを行い地域の方協働しながら支援している。		平成20年度から事業所会議が開催されるので民生委員さん等地域の方と今以上に連携していきたい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	病院の付き添いに地域のサービス事業者を利用し支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議や研修会、地域公開研修等において連携を図り協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等が希望するかかりつけ医にそれぞれ受診されている。定期的な医師の往診もある。又健康面での変化がみられる時はその都度かかりつけ医に相談し、往診・通院にて受診されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に定期的に受診し、日常の様子を報告、相談し、適切な指示や助言をいただいている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホームの看護師や往診付き添いの看護師等に相談しながら日常の健康管理を行ったり、医師への報告も一緒に行っている。又グループホーム全体会議においても看護師による勉強会もあり協働している。		グループホーム全体研修会において利用者の健康管理等についての勉強会を継続していく。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時には職員が交替で見舞いに行き、馴染みの関係の継続に配慮し、病院関係者や家族から情報がもらえるように努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や変化があった時には家族等やかかりつけ医にその都度連絡し、相談、話し合いをしながら全員で方針を共有している。終末期については今回家族会にてアンケートをとったが、ケースごとによるものとする。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	食事・入浴・夜勤を含めた勤務体制・医療器具が不十分等のできること・できないことがあるためかかりつけ医に相談しながらケースごとの対応となる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人及び家族に関する情報を詳しく伝え、今までの環境や暮らし方の継続性に配慮してもらえるように働きかけ、グループホーム職員が訪れたり、時々本人にグループホームに来てもらったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日常生活の中で全職員が意識して言葉かけや対応を行って、記録等についても個人ごとのファイルにて管理している。又研修会にも参加しプライバシー確保の徹底をしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常生活の中で本人の思いや希望を確認し、自己決定を尊重して支援している。又わかる力に合わせた言葉かけができるように工夫も行っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースで生活してもらえるように決まりごととは特になく柔軟に希望に添った支援をしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>それぞれ好みの洋服を選んだり、わからなくなっている方には一緒に選んだりしている。お化粧品についても同様で外出時や行事の時には特に気を配っている。美容室は近所の店を利用されている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>旬の食材を利用し入居者と職員と一緒に準備をしたり、食事・片付けも一緒に行っている。時々はお出前を取ったり、パンパイクングをしたり、行事食を楽しんでもらったりしている。又家事をやるうとする気持ちをうまく引き出す声かけの工夫にも努力している。</p>	<p>普段家庭でしているような大皿盛りでお出しすることも、メニューを見ながら実施している。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>日常生活の中で楽しく食べて飲んでもらえるように好みを確認しながら支援している。又食事時や入浴後にビールを飲んだり、買い物時に好みのものを選んでもらっている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表の利用により一人ひとりの状態を把握してトイレ誘導や声かけ又は薬の服用調整等しながら失敗の軽減に努め、尿取りパットの使用量が以前より減少している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ毎日お風呂をたてて希望がある時やタイミングに合わせて、又声かけにより入浴を楽しんでいただいている。なかなか入ってもらえない方の声かけの工夫も全員で行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりのペースにあわせ又その時々様子にあわせて日中でも休息していただいている。天気の良い日は布団干しをし、冬場は湯たんぽも使用している。部屋の温・湿度にも気を配り小まめな調整をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で家事全般、散歩、日光浴、買い物、歌、作り物、会話、雑誌読み、アルバム見等を取り入れながら、如何したら張り合いや喜びを感じながら過ごしていただけるのか考えながら支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお小遣い程度は手持ちしている方がいるので自分用の買い物はそこから出してもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、日光浴、踊り見学、ドライブ等に本人の意思を確認しながら出かけている。歩行困難な方には車椅子を利用している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブや外出に出で楽しんでもらったり、家族と一緒に外出される方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をかけたり、毎月の家族への便りに本人自らが書いてくれる方もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問してもらえるようにして部屋で会えるようにしている。家族以外の方の訪問があれば家族に知らせるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が研修会にも参加し、正しく理解していて実践できている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室、玄関共鍵をかけずに生活されている。夜間外で排泄しようとする方には現在夜間のみ外窓が開かないように鍵をかけている。又開けようとされている時は声かけて内トイレを使用してもらっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共見守りや訪室にて安全確認を行いナースコールの使用とあわせ 把握するようにしている。夜間は1時間ごとに巡回している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品類は常時鍵のかかる所に、洗剤類や包丁は使用しない時は鍵のかかる所にしまっている。工作類や裁縫箱等も鍵のかかる所で保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	4月から法人全体の委員会ができ担当が出席している。又日常生活の中で転倒予防体操や嚥下体操を行ったり、誤薬防止にチェック表の活用、ガスを使用しない時は元栓を閉める、所在の確認等しながら事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	グループホーム全体研修会で学んだり、法人研修会でも5月に予定がある。又随時医師や看護師に確認している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人研修会にも参加し、グループホームの避難訓練では利用者と職員が一緒に行っている。特養当直さんとの協力体制はできていて消防署には直ぐ通報できるようになっている。地域の方への働きかけは現在散歩に出た時の挨拶程度である。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	その都度個別に家族等に説明を行っていて事業所の工夫や取り組みを示している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行うと共に変化や異変の発見に努め気づいたらすぐに管理者、看護師、医師に報告し、指示をもらって対応している。情報の共有も記録、申し送り等で行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理していて一人ひとり飲み終わるまで確認している。本人の状態に変化があればその都度家族や医師に報告している。職員は薬の目的等について理解をしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多い食材を利用した料理やジュース、乳製品等多く取り入れていると共に水分を多くとっていただくようにしている。又散歩や体操等で身体も動かしていただいている。整腸剤、下剤を使用されている方もいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後全員支援できている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた量や切り方、栄養バランスを考えた献立作りに努力している。水分も一日を通して飲んでいただけのように種類を変えたりしている。嫌いなものや苦手なものがあれば他のおかずに変えて食べていただいている。		太りすぎになりがちなので今よりもっと量の調節をして運動と合わせながら身体に負担がかからないようにしていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日常生活の中で手洗い、うがいの励行と共に調理器具類の消毒、清掃も行い、ガウンテクニックの取り決めもある。希望者にはインフルエンザ予防注射を行っている。法人研修もあり勉強もしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週2回の生協配達とスーパー、魚屋等での買い物により新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。毎日のまな板の消毒や毎食後の布巾の消毒なども行い食堂内の温・湿度にも気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前は広々としていて植木や鉢が置いてあり出入りしやすい環境になっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンやブラインド、冷暖房器具の使用、夏場はすだれやよしずの使用等で光や温度の調節を行っている。テレビやラジオの音量調整は随時行っている。又ソファやテーブル、炬燵等もあり季節の花とも合わせ居心地良い場所となるように工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂内にはテーブルの他にソファがあり、玄関前や日当たりの良い廊下にもソファや椅子があり、気の合った利用者同士や独りでも過ごせる場所がある。玄関前にはベンチがあり日光浴にも活用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していたものや好みのもの等を置き、居心地良く過ごせるように配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	食堂や居室、廊下には広い窓があり常に換気に努めている。又換気扇やエアコン、空気清浄機もあり利用者の様子を見ながら小まめな温度調節も行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、廊下、トイレ、風呂場等には手すりも付いていて身体機能を活かして安全に生活できるように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に表札を掛けたり馴染みの物を置いたり、一人ひとりの状況に応じて日常生活全般において職員と一緒に行動することにより適切な声かけや見守りをし、混乱や失敗を防いだり、ナースコールの利用によりその都度対応を行っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先や駐車場を利用して日光浴や散歩、水やり等の活動頻度は高い。中庭は洗濯干し、布団干し、日光浴、花壇、夏祭り、敬老会等の催し物に活用している。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

年々身体機能の低下と共に認知症も進行し、暴力や攻撃等感情コントロールができにくくなっている方や夜間外に出ようとされる方に対する対応についてカンファレンス等で担当を中心に全員で話し合い統一したケアに取り組んでいる。日常生活の中で家事全般などの他、散歩や日光浴、体操などをできるだけ取り入れ身体面、精神面での安定を図っていきたい。また、職員の入れ替わりは少なく馴染みの関係ができていて利用者一人ひとりのペースに合わせた生活ができるように努力している。研修会には全員の参加を呼びかけ勉強会への参加とも合わせ、質の向上に向け全職員が積極的である。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームつばき
(ユニット名)	(さざんか)
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市太田和2-10-3
記入者名 (管理者)	嶋原 ゆかり
記入日	平成 20 年 5 月 13 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の行う地域の方への情報発信を、一緒に参加し、展開している。		地域の方々からの相談窓口となれるように、より積極的に認知症ケアの実例などを報告していきたいと考える。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホームの理念・方針を理解知るために、新人研修・全体会議・申し送り時などで、伝えている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族へは、行事の取り組みを報告したり、地域研修会などに参加し、認知症のことを地域の人々に分かりやすく説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くを散歩したり、外気浴を行っているうちに、自然に挨拶を交わせるようになっていく。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、地域のお祭りやバザーに出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症の周辺症状の悪化をできるだけ少なくするかかわり方など、職員間で話し合っている。		地域公開研修などで、地域の方へ情報を発信できればよいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目を職員全員で見直し、その中ですぐ取り組める項目を把握し、チームで実践していく予定。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ターミナルケアの事例について、報告を行い、食事についての工夫など参考にしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市へ、もっと地域でのニーズを伝えていきたい。		在宅介護者からの問い合わせ情報など、ホットラインで市へつなげていきたいと考える。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人の研修で定期的実施してもらい、理解を深めていきたい。		新人職員も入職してきているので、研修で、理解を深めていきたいと考える。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修会やカンファレンスなどで、虐待について学び、話し合っている。		新人職員も入職してきているので、研修で、理解を深めていきたいと考える。定期的に勉強会を行っていきたいと考える。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	3月の家族会で重要事項説明をし、納得していただいている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者の意見は生活の中で、随時聞いて運営に反されている。		部外者へ表せる機会は、設けていないが、見学者との見学者との話から必要性があれば、行っていきたいと考える。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	1ヶ月に1回、降らしぶりを手紙にして報告している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	いつでも意見・不満などを話していただけるように、説明しさらに玄関に意見箱を設置している。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	年3回くらい一人一人の職員と時間をつくり、意見や提案を聞き運営に反映させている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	職員は大変協力的でなじみの関係も、持ってきているので、事前に説明すると、勤務調整がしやすくなった。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	なじみの関係をつくるために、職員の離職が少なくなるように、OJTの充実を図っている。		職員の募集において、人材が不作しているので、離職の少ない環境を整えていきたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員におけるトレーニングにも、中堅職員が、マンツーマンで指導する体制をとっている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修などに参加し、交流の機会をつくっている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	申し送り時や職員会議時など、また身近な場面で声をかけ、話を聞くようにしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年3回ほど、個人別に目標をたずね、一緒に取り組む努力をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	現在新しい入居予定がないため、行っていない。		事前訪問などで、本人から話を聞きたいと考える。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	現在新しい入居予定がないため、行っていない。		事前訪問などで、家族からの話も聞きたいと考える。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学にこられた際、本人や家族の「要望」「ニーズ」を見極め、グループホームとしてできる支援のあり方を説明している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に本人も来られた際は、グループホームの生活の一部と一緒に体験してもらっている。		本人に体験をしてもらうために、一緒におやつなどを召しあってもらい、雰囲気を感じてもらいたいと考えている。
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の話を聞きだし、「人生の先輩として」かわりを深め、一緒に行動しながらやりがいを見つけていくようにしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会・行事などに参加していただき、一緒の時間を過ごす中で、本人の気持ちを伝える仲介する調整役も行っている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の誕生会をよいチャンスにし、お互いの思いを深められるように配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の声を家族に伝えて、機会をみつけ対応してもらえるようにしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	丸5年間、生活を共にしてきているので、日により身体状態も変化するが、お互い、かわれるように調整役も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在契約が終了している関係がない。		継続的なかかわりを持っていきたいと考える。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で自然に本人の思いをたずね、記録に残し把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を本人・家族からたずね、積み重ねて、その人の全体像の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	健康診断を行って、かかりつけ医にも、診てもらい、看護師にも定期的に報告し、心身の状態の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	年2回アセスメントを行い、またカンファレンス時にも暮らし全体を考え、ケアプランを作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時変化が生じたときは、家族と話し合いケアプランを作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録のつけ方が共有化できておらず、介護計画の見直しに活かできていない。		重点支援のポイントを出し、職員に理解してもらい、記録にし、実践に活かしていきたいと考える。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の要望に応じ、法人内の特養の見学を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の趣味の意向に応じ、大正琴や書道、法人のデイサービスで行っている余興に参加している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ他のサービスの活用はありません。		今後必要があれば、他のサービスの活用も行っていきたいと考える。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ地域包括支援センターとの協働はありません。		今後必要があれば、地域包括支援センターと協働して行っていきたいと考える。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には、週1回報告を行い、救急時には総合病院を紹介してもらえるようにしている。		今後専門医との関係を徐々に築いていきたいと考える。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医への受診は、現在のところ行っておりません。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回看護師に利用者を診てもらい、健康管理や医療活用の支援を受けている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時に、グループホームでの生活情報などを交換し、定期的に情報を求め、できるだけ早い退院に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本年度の家族会でも、重度化や、終末期にむけた方針を説明し、個々の家族と少しずつ話し合いを持っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームとして「できること・できないこと」を話し合い、支援のあり方を検討している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在のところ、住み替えはないので、行っていません。		必要な際は、本人・家族と十分話し合い、情報交換し努めたいと考える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>本人にあった言葉かけや対応を行っている。個人情報の取り扱いを文章にて職員に誓約している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の思いをきちんとたずねた上で、支援を行っている。また本人が決めかねている時は、説明を十分行い、終わった後に感想を聞きケアの方向性を考えるようにしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>行事などがある日には、きちんと説明し、一人ひとりに了解を得ている。また、「今日はどうしましょう?」と希望をたずねるようにしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎朝の整容・化粧を支援し、美容院へは本人に望む日に出向いている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事をしながら本人の好きな食べもの話をしたり、情報を得て献立に入れている。配膳の準備や食材のカット・片付けなどを手伝ってもらっている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好調査を実施し(年4回)好みのおやつや飲み物をたずね、日常的に楽しめるようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>トイレでの排泄を職員の目標にし、個々の排泄パターンを把握し、便秘にならないように、生活の中で工夫をしている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴が好きな方が多く、毎日入浴を行って、楽しめるようにしている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中の活動・体操・日光浴を取り入れ、布団は出来だけ干すなど、環境を整えている。夕方からはゆっくりとした対応を行っている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>生活歴を把握し、その人の持っている力を発揮できるように支援している。(歌・家事・踊りなど)</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>財布は個人管理してもらい、買い物に出かけたときは、ほしいものを買ってもらっている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天候にもよるが、外気浴や散歩など本人の希望にそって気分転換を行っている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>本人の希望を普段さりげなく聞き、家族に伝え、(墓参りや自宅へ出向く)などの機会をつくる支援をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話をかけ、取り次ぐ支援を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	「いつでも、訪問をしていただきたい。」旨を説明しており、実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などで理解している。		研修と共に事例検討をしながら、深く理解し実践していく努力が必要と考える。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないでいる。夜間は防犯のため玄関に鍵をかけている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室で過ごしている場合は1時間に1回程度様子を観察している。夜間は1時間に1回巡回している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知症の状態に合わせて、危険な物品等を保管している。 (化粧品・アクセサリー)		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒアリハットを活用し、一人ひとりの状態に応じ事故防止に取り組んでいる。		再発している転倒・誤薬には、もっと検討を重ねていきたいと考える。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一部の職員は、応急手当の実践を行っていないので、全員が確実にできるようにしていきたい。		初期的対応の訓練を定期的に行っていききたいと考える。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行っている。法人全体研修への参加と、特養の協力が得られる体制をとっている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個人の身体的状況に合わせ、起こりうるリスクを家族と話し合い、一緒にかかわり方などを検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	生活の中で表情・行動の変化を読み取り、本人のも確認している。バイタルチェックを行い速やかに、かかりつけ医・家族に相談し、対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的にかかりつけ医と不すりの情報交換をし、「できるだけ少ない薬で」服薬管理をしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食前に水をもんでもらったり、10時のおやつにプルーン。またオリゴ糖なども活用している。体を動かす取り組みも行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調不良で、摂取量が少ないときは捕食でカバーしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修に参加し、予防に努めている。職員・利用者は手洗いうがいを励行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板の消毒、食器類の乾燥に努め、食材は新鮮なものかどうか確認してから使用するよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花鉢などで飾り、出入りにおいては安全性に配慮し、整頓を行っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした、すがすがしい空間作りをし、それでいてほっとできる自分の居場所が作れるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはいすを置き、ほっと一人になれる場所を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを利用し、(家具・衣類・寝具)居心地よく過ごしてもらっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調の管理はこまめに行っている。また室温計を確認しながら行うようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床がフラットなので、室内での歩行練習が行える。また普段の活動の中で自然に体を動かし、体力を維持している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症の理解力の差は、一人ひとりへの言葉や視覚への働きかけを工夫して、本人が安心して暮らしていけるよう見守っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室の外の草むしりや植木の水やりなどを一緒に行い、季節を感じてもらっている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開所以来6年、一人の退居者もおらず、1日1日を大切にすごしていただいています。「おいしく食べて、しっかり出し(排泄する)、ゆっくり休む」を運営方針として取り込んでいます。また、お風呂は、ヒノキ風呂で、入居者はお風呂を希望される方が多く、できるだけ多くの人に入ってもらっています。